

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

<p>実践年度・タイトル</p>	<p>平成(30)年度 視覚機能(視覚認知、空間認知、眼球運動)を育むためのトレーニングアプリの利用 (個別指導)</p>
<p>授業について</p>	<p>教科名等 ■国語 □社会 □算数/数学 □理科 □生活 □音楽 □図画工作/美術 □家庭/技術・家庭 □体育/保健体育 □特別の教科 道徳 □外国語/外国語活動 □総合的な学習の時間 □特別活動 □自立活動 □各教科等を合わせた指導 □その他の教科 □その他()</p> <p>単元・題材名 視覚機能のトレーニング</p> <p>授業の目標 ①視覚機能(視覚認知、空間認知、眼球運動)を養う。 ②集中力を養う。</p> <p>学力の3要素 ■「知識及び技能」 □「思考力・判断力・表現力等」 ■「主体的に学習に取り組む態度」</p>
<p>学習集団と子供の実態</p>	<p>学校・学部・学年・人数 □通常の学級 □通級による指導 □特別支援学級 □特別支援学校 ■その他(個別の取り出し指導) □就学前 ■小学生 □中学生 □高校生以降 □特定されない (3)年(2)人、(5)年(1)人、(6)年(1)人</p> <p>対象の障害 □視覚障害 □聴覚障害 □知的障害 □肢体不自由 □病弱・身体虚弱 □言語障害 □自閉症 □情緒障害 □LD(学習障害) □ADHD(注意欠陥/多動性障害) □その他</p> <p>子供の困難さ ■見ること □聞くこと □話すこと ■読むこと ■書くこと □動くこと □コミュニケーションをすること □気持ちを表現すること □落ち着くこと・集中すること □概念(時間、大きさ等)を理解すること □学習(計算、推論等)すること □その他 ・視覚機能の弱さが推測される。(文字の見逃し、単語や行の読み飛ばし、見たい部分を探せない、細かい形の違いがわからない、視写が苦手、文字を書くときにぎこちない、漢字の形を覚えるのが苦手) ・注意集中の問題がある。</p>
<p>支援機器等教材の活用について</p>	<p>活用の意図 Aコミュニケーション支援(□A1意思伝達支援 □A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(□B1情報入手支援 □B2機器操作支援 □B3時間支援) C学習支援(■C1教科学習支援 ■C2認知発達支援 □C3社会生活支援) D実態把握支援(□D1実態把握支援)</p> <p>○アイムーブメント、ジオボード、テングラム、ばらばら漢字といった視覚機能のトレーニングを、タブレットを使用してゲーム形式で楽しく行う。 ○細かい設定変更が可能のため、子どもの苦手に合わせて、子どもがモチベーションを保てる難易度に調整して使用した。 ○誤った文字ボタンをタッチしないように気をつけることは、行動抑制力や注意力を養うことにも繋がる。</p> <p>使用した支援機器等教材の名称と画像 ビジョントレーニングII for iPad (レデックス株式会社) iOS App © Copyright (C) 2013 Katsuya Kitade, Masanobu Takahama, Info Lounge LLC and LEDEX Corporation. All Rights Reserved. ※右の画像は下記HPより転用 https://www.ledex.co.jp/products/vt001ipad</p> 
<p>授業展開</p>	<p>授業展開・支援の手立て 取り出しの個別指導の時間内に1回10分程度実施した。回数は児童により異なるが、いずれの児童も複数回行った。児童の状態に合わせ、1回あたり1~3つのトレーニングを実施した。</p>
<p>効果・評価</p>	<p>子供の様子や変容および授業の評価 ・指導の効果を評価するため、指導の前後に、似ている文字の形を見分ける課題、文字の形の誤りを探す課題を行ったところ、1名の児童の課題成績が向上した。その他3名の児童については、課題によって成績の向上・低下がみられた。これらの課題の実施には、視覚機能の力だけでなく、注意力や集中力も求められるため、それが成績に影響した可能性が考えられる。 ・ipadを使用するという特別感から、喜んで実施していた。 ・「勉強」というよりはゲーム感覚で、熱中して取り組む児童が多かった。 ・前の回に行った点数を意識して、その点数を超えるために自主的に繰り返し行う様子がみられた。 ・回数を重ねるごとに問題を解くスピードがあがり、「前間違えた問題だ！」と誤答箇所を意識して行う児童もいた。</p>